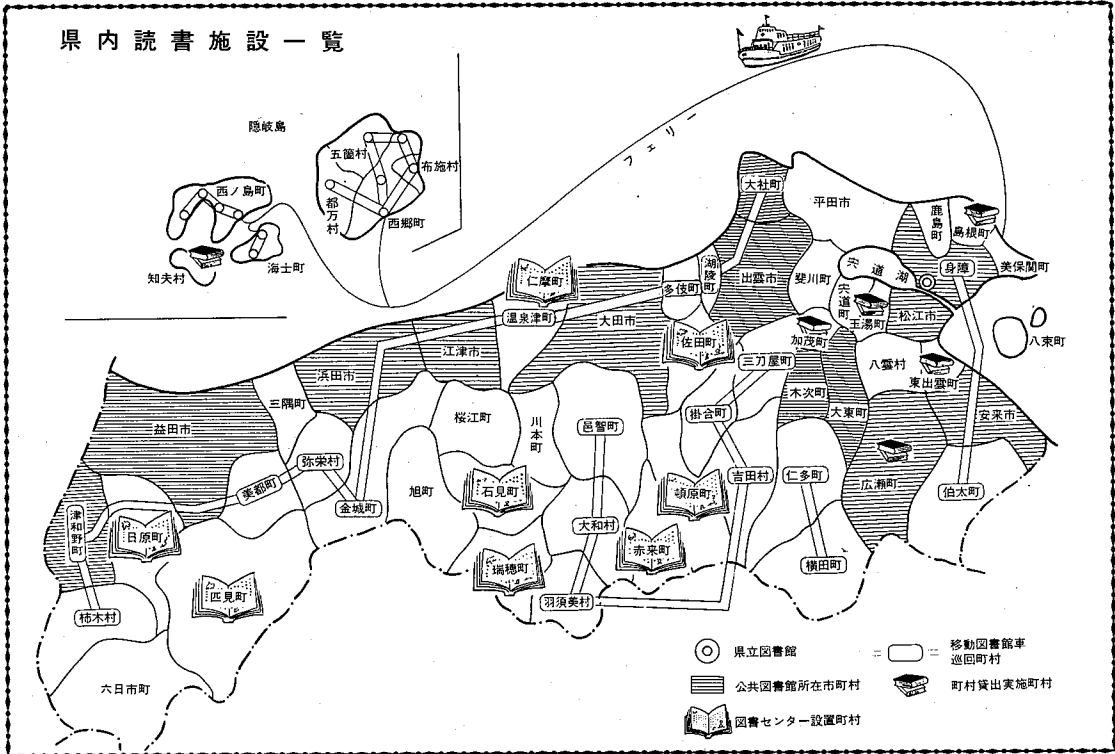


図書館たより

題字：和漢古典から

県内読書施設一覽



「町村図書センター」を迎えて

あらゆる奉仕活動を通じて読書普及に力をつくされている県立図書館の御高配により、わが佐田町に今年度の「図書センター」を設置して頂いたことに深甚の謝意を表します。

新らしく設置した書架に「図書センター」の看板を掲げ、分類された図書を見ると、失なわれようとしていた読書への情熱がよみがえってくるのを覚えます。

この県立図書館の御配慮に報いるには、なるべく沢山の町民に読書してもらうことであり、町内の各小中学校はもとより町内一般に対し、有線放送、広報、回覧等でP.Rにつとめた甲斐あって係は毎日大忙しといったところです。

最近視聴覚機器の普及に伴って、一般に読書しなくなったといわれますが読書によって培われた知識、教養こそ個人の大きな資産であると思います。

すべて貧しい昭和の初期に育った私の少年時代は、図書は極めて貴重な存在であり、当時読書によらずいふん多くのことを学び取った気がします。やや乱読の傾向があったものの、雑誌から文学全集に至るまで盛んに読破し、雄大な夢とロマンをかきたてられたものです。名作といわれるものの、あの快い興奮とさわやかな読後感、まさに読書の醍醐味というべきでしょう。

佐田町中央公民館も昭和46年に完成し、年々図書を購入し蔵書数も増しておりますが、飛躍的な読書人口増がなかなか期待できない現況です。しかし今回の「図書センター」設置を契機に大いに読書の啓発を行ない、読書会の設立もしたいと思っております。

佐田町教育委員会教育長 和田 幸一郎

県下にひろがる「古文書を読む会」(一)

出雲市の巻

48年7月から、出雲市図書館の古文書を読む会がはじまった。冷房のない西日が一ぱいにさし込む二階の会議室で、空席が一つもないという盛況であった。その状態は今も続いている。

講師は、故人になられた県文化財専門委員の岡義重氏と、県立図書館の藤沢秀晴振興課長(当時県立出雲高校教諭)が、隔月に交代であたることにした。

テキストは、藤沢の場合、県立図書館の古文書を読む会で使用したものを、出雲でもう一度使うという方式をとった。しかし、岡氏は、独自に発掘された手持ちの史料や、また出雲市図書館の館蔵古文書の中から手ごろなものを選んでテキストに使われたから、地元の人たちには、ことに親近感が強く、文書の解説と同時に、郷土の歴史そのものに直接ふれることが出来るという迫力があつた。

この会が、長期にわたって変らぬ盛況を続けて来たのは、このような地元に密着した史料を、丹念にとりあげて来られた岡氏の努力に負うところが大きい。

出雲市図書館は、県下の市町村公共図書館の中でも、とりわけ早くから古文書・古文書の収集にとり組んできた図書館である。館蔵の郷土資料目録も、編集・出版されている。ことに、検地帳をはじめとする土地台帳、徴税令書である年貢免状などの収蔵が多い。

しかし、これらの古文書資料のたぐいは、えてして知る人ぞ知る——という形のものになりやすく、せっかくの貴重な館蔵資料も、事実上はほとんど利用されずじまいになりがちである。

その意味で、このような古文書を読む会によるテキスト化は、図書館利用の分野をひろげる働きをも担っているといえる。

開会は、毎月第1土曜日の午後1時30分からである。

会員は、市の週報などによる図書館のよびかけで集った人たちである。現在約80名をかぞえる。そのうち約3分の1ほどは女性会員で、中には夫婦そろってのオシドリ会員もみられる。

しかし、何と云っても、会員で異彩(?)を放っているのは、元市長の森山繁樹さん、前市長の布野信忠さん、そして現市長の直良光洋さんの、新旧3市長の顔ぞろえである。

どうしてこんなことになったか?—答えは簡単、三氏ともその家は相当の旧家で、郡や町村の役人を藩政時代につとめてきた家柄である。したがって自家所蔵の古文書類を、何とか自力で読解したいという目的からである。ただ、公務多忙の前、現市長は、このところ、長期欠席(?)の様子。

ついで、すこぶるつきの熱心な受講生の1人が、

前市教育長の新宮義一さん。最前列にいつも席を留めて、予習も必ずして出席される。いかにも元学校の先生らしい真面目さ——そのため進境は著しい。

温泉津町からはるばる参加の重田保之さん(元中学校長)も、ほとんど毎回出席の模範生。こ

の会で兄さんの山田さんと顔を合わされるのも微笑ましい。

前にのべたように、地ダネと県立図書館で作ったものの併用であるが、岡義重氏が作成されたものの中で、俗に1枚ものという売買証文のたぐい、あるいは宗門放状(しゅうもんはなちじょう)などは、どこにでもある古文書として、パターンを知るうえに大切なものである。

近世の史料は、特定な記録類以外の、公文書のたぐいは、比較的型式がととのっている。だから、ある型をマスターしておく、少々の虫損や破損があっても推定で読解できる。その意味で、このような基本的な、見方によってはありふれたもの——と思



(「古文書を読む会」風景)

われがちの文書を、まずテキストにされたのは、さすが岡氏の見識を感じさせる。

「恐惶語伝帳」(きょうこうかたりつたえちょう)は、天明の一揆に関する史料であるが、いままで未公開のものであった。これもテキストにとりあげた。

舞台が出雲市周辺のお膝もとのことではあるし、がうもん(拷問)の時は、はしごに板を敷き、砂を蒔き、其上へはだかにして寝させ、水三升ほど宛のませ、腹をふみ付る也。

其時はうらび、なきさけぶこえ、天にも地にもつき通すほどのこえ……股木にのせ、四足に石を付、色々のがうもん有之候。

などという凄惨な内容が、あらためてこの一揆の深刻な一面を知らせてくれた。

その他、テキストで好評だったのは、旅日記のたぐいである。

浜田図書館の提供をうけた、文久2年(1862)の「伊勢参宮道中日記」(写真参照)とか、国学者藤井高尚の「出雲路日記」

などがそれである。「出雲路日記」は木版本で、筆写本とは違った味わいがあった。それにしても、このような木版本を、昔の人は寝ころんでスラスラ読んだわけで、いまさらながら、文字読解力の時代的な隔りを感じさせられた。



(「伊勢参宮道中日記」)

50年7月の末、岡義重氏がなくなりました。出雲古文書を読む会にとっても痛恨の出来事であった。この月の5日に、みずから古文書を講義されたのが最期になった。

岡氏のあとは、県立図書館囑託の美多実氏(元出雲高校教諭)を講師にあてて現在に至っている。

美多講師になってから使用したテキスト史料は、「見聞覚知記」(宝暦・明和期の農業経済史料)とか、大槻七兵衛・井上恵助の伝記史料など、やはり土地カンのあるものをとりあげている。

参加会員の中から、積極的な意見や調査報告が寄せられるのも、ここの会の喜ばしい一面である。

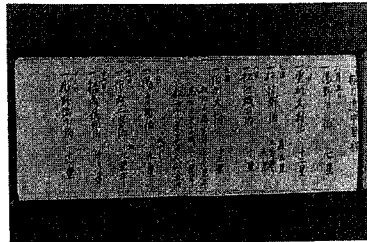
大社町の杉谷正吉さん(同町町議)は、大社町とその付近の事項について、不明な点が出るとすぐ調

査し報告が寄せられる。さすが大社史話会のリーダーらしい熱心さがうかがえる。多根令己さん(県商業高校事務次長)もそんな1人。熱心な読書家らしく、いろいろな図書を博搜して、不明な点の解決に貴重な意見が出てくる。

こういう会は、ともすると講義の聞っ放しになるものだが、このような事後調査や関連史料の探索が行なわれるのは素晴らしい。会の内容が、これで一段と深まってくるし、1人の知見を広い場で交流できるのは、古文書を読む会ではとりわけ大切なことである。

だから、この種の会のテキストは、多少難解なものでも、みんなでウンウン言いながら、知恵をふりしぼって取り組み、不明な点をみんなでチェックしながら読むという姿勢が大切である。その成果がノートにたまれば、ゆくゆくはそれが立派な語彙集になるだろう。

西神西(にしじんざい)から参加しておられる磯田尊行さんは、この会で学習したところを、地区へ帰って伝達講習をしている御仁。自身、納税組合長や民生委員として部落の世話をしながら、地区公民館を会場に毎月1回開くという。



(「伊勢参宮道中日記」)

会員は15名ほど、2年半ほど前から続いている。プリントをおこして、伝達内容を要約

すると、一番徹底するし、欠席した人に配れるのだが、ナカナカ手間がかかって——と磯田さんにも悩みがある。

こういう孫会の増加によって、古文書解読人口が裾野を広げて行けば、史料の発掘保存の気運が、大きく輪を拡大することになる。

古文書を読む会は、たんに好事家が集まって、ひとの読めそうにないものを読んで楽しむ会にはならない。

日に日に失われて行く古文書を保存し、死蔵されている文書を公開、解説して、共通の財産を豊かにして行く運動でありたい。

出雲市図書館の古文書を読む会が、将来そのような方向に、より進んで行くことを希望しながら、紹介の結びにしたい。

藤沢秀晴(島根県立図書館振興課長)

町村図書センター 2年目を迎えて

昭和50年度の活動状況

児童書の利用度には圧倒されます。配本割合は35%ですが、利用度は56%にも達しています。これは子供にとっては、身近なところに本があれば、強制されなくても、どんどん自分で読むようになる証拠であると思います。1年が経過し返却を受けた貸出本の整理中に赤カードの貸出欄が子供達の名前でいっぱいになっているのを見ると図書センターの設置で一番喜んでいるのは子供たちであるように感じます。

文学書の利用度は37%で妥当な線であると思います。

その他の分類では総記から語学が、いまひとつ低調であるように思います。これらに分類される本は余程、ベストセラーにでもならないかぎり目立たない存在ですが、1冊1冊をとってみると非常に役に立つものがありますので、有線放送、公報、その他ことあるごとに1冊1冊のPRに務めていただきたいと思います。

図書購入予算は石見町41万円、日原町40万円、匹見町32万円、仁摩町20万円であり、このため、おのずと資料整備状況には格差が出ておりますが、年次計画により漸次充実の方針が樹てられた事は非常に喜ばしいことです。

昭和51年度の活動方針

今年度も利用の増大を図る事は勿論ですが、資料整備、特に参考資料、郷土資料の充実にも目を向けたいと思います。そのため配本図書の中に「辞典の辞典」(文和書房)を入れましたし、資料配布も行いたいと思います。また図書センター相互間の交流の場を設け、効果的なPR方法、取書方針などを話し合い、あわせてPR資料交換も行いたいと思います。

分類別利用状況と図書購入内訳

分類 町名	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	J	計	50年度 図 書 購 入 内 訳		
	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学 家事	産業	芸術	語学	文学	児 童		参 考 図 書	一 般 図 書	児 童 書
日原町	17	18	34	36	29	42	29	34	11	525	1,803	2,578	現代哲学辞典 新英和中辞典 新和英辞典 経済学辞典 生物学辞典 朝日年鑑 原色日本植物図鑑 等 10冊	夏目漱石集 柳田国男全集 重要文化財 岩波図書館文庫 等 360冊	130冊
石見町	0	14	13	43	30	20	11	10	5	444	2,004	2,594	万有百科大事典 日本政治裁判史録 原色菊 財産相続の法律知識 契約書式の作成全集 図解による法律用語辞典 等 16冊	日本の民話 体育スポーツ総覧 世界教養選集 等 361冊	190冊
匹見町	51	15	48	117	41	76	24	44	34	5,632	6,304	12,386	重要文化財 現代の常識辞典 現代用語辞典 毎日年鑑 日本の貨幣 家庭法律大事典 中国年鑑 等 23冊	日本の民話 家庭教育全集 等 310冊	80冊
仁摩町	18	25	40	52	23	33	15	67	7	470	619	1,369	重要文化財 グランド現代百科辞典 等 18冊	世界文学全集 現代日本文学アルバム 美しい日本の旅 等 50冊	30冊
頓原町	21	12	101	106	56	3	7	19	5	603	736	1,669		ドキュメント昭和史 井上靖小説全集 横溝正史全集 詩の本 等 69冊	21冊
計	107	84	236	354	179	174	86	174	62	7,674	11,466	20,596			
%	0.5	0.4	1.2	1.7	0.9	0.8	0.4	0.8	0.3	37.3	55.7	100			

51年度新図書センターの横顔

瑞穂町

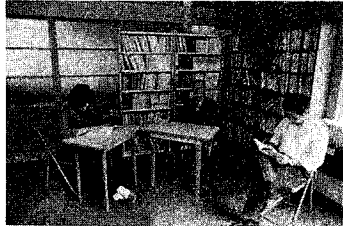
- ① 設置場所、田所公民館（山村開発センター内）
- ② 担当者、天川芳幸社会教育主事
- ③ 貸出時間、毎日午前9時から午後5時まで
- ④ 休館日、日曜日、祝日
- ⑤ 図書購入費、町費20万円、寄贈11万円
- ⑥ 特色

昨年度、山村開発センターの竣功に伴ない町立図書館の移転をしてみても改めて驚いた。教育と産業の振興を二本柱としている当町としてはあまりにも粗末な図書内容である。町有図書はわずか1,400冊余

赤来町

- ① 設置場所、来島公民館
- ② 担当者、安部節来島公民館長
- ③ 貸出時間、毎日午前9時から午後4時まで
- ④ 休館日、土曜日午後、日曜日、祝祭日
- ⑤ 図書購入費、30万円
- ⑥ 特色

むらを縦断する国道54号線沿いに、あたりの緑をえぐるような鋭い金属音と共に展開される



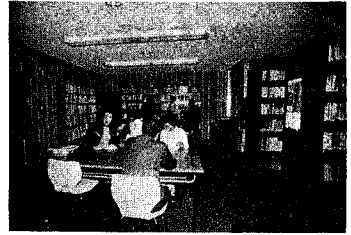
モーターリゼーションという白昼夢のなかの山峡の日は未だ高い。それなのに小学生が帰る頃には家に入っ子1人もいない。ほとんどの母親は幼児を保育所に預けて働きに出ているからだ。母親のいない下校時はむなしひとときである。こうした虚脱状態から子どもを救うために10年前にスタートしたのがこの図書館である。最初は、子どもたちにとっては、雨宿りぐらいにしか考えられなかった図書館が今日では、学校と切っても切れない仲となり、最近にわかには咲く児童文学の媒介によって、作文への意欲も盛り上がり、淋しかったあの頃にくらべ貴重な時間がここで過ごされるようになった。図書はそれぞれ家庭へ持ち帰られ婦人や老人のなかに読者層を厚くした。もちろん、公民館が関係している分館や家庭教育学級、主婦農業学校等の読書会にも成人向きの本を集团的に貸出している。

図書館が生み出すむらづくりの発想は数限りなく、考える農民の育成につとめ、自然を守りながら郷土に生きようとする人々の固い絆となって新しいむらづくりの息吹が生まれ出ることを願う。

り、それも新しいものは少なく、基本図書はほとんど無しといった状態である。このような現状で読書普及活動がどうしたらできるだろうかと思案していたところ、県立図書館より図書センターを設置していただき、大きく力付けられたところである。当町にはこの他に各公民館（4館）に「広域巡回図書」を置き、年に3回関係市町村を巡回して住民の利用に供している。

経済的、社会的に多忙な今日、自己を見失なわないう歩むためにも読書は大切である。そのために社会教育活動のあらゆる場で読書の必要性を解き、読書熱の高まりをつちかいつつある。たとえば家庭教育学級では「親子読書のすすめ」に取り組み、読書グループの育成に努めている。また公民館では成人学級や婦人学級に読書普及を計画的に取り入れつつある。これらの指導には公民館主事や社教指導員があたっているが、今後は地域の有識者の活動に期待して、指導者養成の方策等を図る予定である。

先般、青年会より11万円余りの寄贈があり少額ながらも町費と合わせて31万円の図書購入ができた。図書センター、巡回図書、町有図書等の本を多くの人が手にされるよう願うところである。



佐田町

- ①設置場所、佐田町中央公民館（町民会館）図書室
- ②担当者、神田満穂社会教育主事
- ③貸出時間、毎日午前八時三十分から午後5時まで
- ④休館日、祝祭日のみ
- ⑤図書購入費、22万円
- ⑥特色、まだ独自の蔵書数は少ないが、



3,200冊の中には参考図書一主に年鑑、図鑑類、統計書等を重点的に置いている。利用は小中学生を中心に高校生、婦人層の順であり、やはり一般成人の読書人口が伸びないのが悩み。今年度図書センター設置を契機に、町内5か所の出張文庫を一層充実すると共に、婦人会、青年団の読書会を中心に、読書人口の倍増を図るのが目標である。

新刊図書紹介

「ちょっとキザですが」

磯村尚徳著 講談社 880円

ニュース・センター・9時の「磯村さん」が書いた楽しいエッセイ集である。

十数年の海外生活の経験を、その国々の風俗、習慣等をまじえ、特に子供の頃を過ごしたフランスについては、著者自身「大のフランス好き」というだけのことはあって、熱を入れて描かれている。

又、ヨーロッパを異国、アメリカを外国とする考え方からの両者の比較、日本の対外的、客観的評価等、これから、海外へでていく人々への、ある種のガイド・ブックにもなりそうである。

ブラウン管に写るおしゃれ論から、世界の食物、中年における健康法、さらに、三カ国語以上という語学力の持主である著者の言語習得法等、NHKの？かつ「ソフトでイキ」にまとめてある。

「寿命を決定するもの」

F.M.バーネット著 紀伊国屋書店 800円

人間は、10才位からすでに老化現象がはじまりつつあると聞いたら、恐らく大部分の人は啞然とするだろう。

人間の寿命を決定する老化という現象はどのようにして起るか。それについて、免疫学の世界的権威者F.M.バーネットは、彼の自説である免疫クローン選択説を基礎に、分りやすく解説している。そして又、今日非常に難しい病気であるガンが、老化現象と極めて密接な関係にあるという面白いからみあいに関問題を展開させている。

著者の免疫クローン選択説を全面的に受け入れるかどうかは別として、誰にも確実に訪れてくる老年という問題について、単なる科学的究明のみでなく、社会学的、人間学的側面からも考察を行っている点は、本書を大へん興味深いものにしてている。

「週刊誌のすべて」

朝日新聞社 800円

本書によれば、日本の週刊誌の推定発行部数は、49年が11億4118万冊。その種類は50種以上であるという。それだけ大量に発行、購読されているというのに週刊誌についての論考は少なく、その内情は意外と知られていない。本書では、その読まれ方、読み方、作り方、歴史、下部機構、海外との比較など多方面からその実情を捉え、また、週刊誌像についての座談会を設けるなど、興味深い週刊誌論である。

「島根のむかし話」

島根県小・中学校国語教育研究所編 日本標準KK
古くから県内各地で語り継がれてきた昔し話を、小・中学校の先生方の手により、このたび一冊の本にまとめて刊行されました。

お話しは、全部で59話をとりあげ、「どうぶつ話」、「しあわせ話」、「こわい話」、「ゆかいな話」、「カップとキツネ」、「とんちとちえ」、「いわれ話」に分類し、できるだけ語りを生かしながら再話されています。

子どもたちが読みやすく、自ら楽しく読みひたることができるよう、また親や教師がおもしろく読み聞かせができるよう配慮してあります。

「野菜の花」

写真と文 矢野勇著 KK朝日ソノラマ 1,500円

揚げたてのコロッケや、洋皿の端にちょっぴり載っているマッシュポテトに使われるジャガイモが、どんな花をつけるのか知っていますか？

27才の若さで死んだ天才詩人石川啄木は、こんな歌を詠んでいます。

「馬鈴薯のうす紫の花に降る、雨を思へり、都の雨に、

淡紫色のジャガイモの花は、黒土の畑の真中で、6月の梅雨に濡れながら、ひっそりと咲いていますが、あまり人に知られていないそんな野菜の花を沢山集めて撮ったのが、この写真集です。

いわゆる鑑賞用の花とちがって、あでやかな色彩

や、造花の豪華さはありませんが、接写をうまく用いて撮られた素朴な花が、十分に目を楽しませてくれるし、又、意外な野菜が思いがけない花をつけている。そんな発見を楽しめる本です。



蔵書目録の書名索引編できる!!

このたび、書名から図書をさがし出すことのできる、書名索引編を作成しました。

これは、今までに完成した蔵書目録全8巻に収録の約8万冊の図書を書名から検索でき、当館所蔵の資料を利用するのに一層便利になりました。

この目録は県下各市町村教委（市町立図書館のある所はその図書館に）、県立学校等に配布してありそれぞれ活用されています。

当館を直接利用できない地域の方々も、この目録によって希望される図書を郵送により利用できる「メール制」があります。

多くの方々の利用をお待ちしています。

「メール制」利用の手びき

○利用できる方

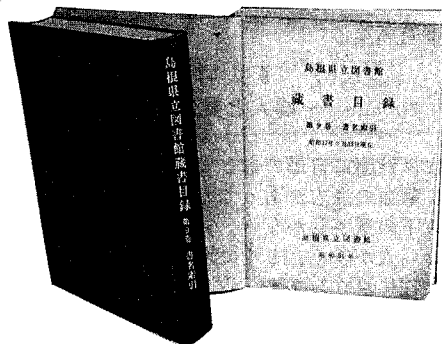
県内に居住している方。または県内に勤務か在学の方。

○登録の手続き

氏名、生年月日、住所、電話番号、郵便番号、勤務先または学校名（学年）、保健証の記号番号。

○図書を請求する場合

登録番号、住所、氏名、貸出を希望する図書のタイトル



番号、請求記号、書名、巻（号）数を当館メール制係に連絡する。（蔵書目録でさがし出してください。）

○貸出図書の冊数と期間

1回に3冊まで（ただし2冊以内とします）。

期間は30日間。

○貸出できない図書

貴重図書、寄託、郷土関係図書等は貸出しできませんので、ご了承ください。

○送付の方法および送料の負担

発送、返却は書籍小包で行い、郵送料は往復共利用者負担。

その他詳細は、当館メール制係か、市町村教委にお問合せください。

「第8回全国子どもの本

と児童文化講座」

—岡山市で開催!!—

日本子どもの本研究会主催

会 期	昭和51年8月2・3・4日
会 場	岡山衛生会館（第1日目全体会場） 山佐別館（国鉄岡山駅前）
定 員	600人（こども学園 150人）
申込〆切日	昭和51年7月20日
参加申込先	東京都練馬区豊玉北4-4 桜台マイコーポ 105号室 〒176
現地実行委 員会事務局	岡山市奉還町1-7-7「岡山市ど も文庫」内・岡山市子どもの本研究会

寄贈図書

この寄贈券が有効な期間は、昭和51年7月20日～8月31日までです。

図書名	住所	氏名
米子の歴史散歩	米子市	島中 弘
続・隠岐騒動	東京都	藤田 新
句集・出雲路	大社町	山根 村笛
佐田町史	佐田町	勝部 幸市
県令 籠手田安定	東京都	鉦鹿 敏子
まぼろしの戦国城下町	広瀬町	桑原 英二
島根のむかし話	松江市	岡田 透
生きがいの創造 他	松江市	大本島根本 苑
西晴雲画集	大田市	西晴雲 美術館
広瀬小学校百年史	広瀬町	広瀬小学校
こどもって何だ	松江市	中国新聞社 松江支局
開校百周年記念誌	島根町	加賀小学校
開校百年史	斐川町	莊原小学校
津田小学校教育百年史	松江市	津田小学校
開校百周年記念誌	美保関町	森山小学校
開校百周年記念誌	美保関町	片江小学校
王維研究	松江市	入谷 仙介

文部省選定

うすい血

— 婦人と貧血 —

カラー 29分

献血は健康に自信のある人たちが参加するものですが、献血の意志があっても血液を検査してみると基準以下の重さしかない、貧血気味で赤血球の異常に少ない人が多く、とくに思春期から更年期にかけての女性に目立ちます。最近のデータでは150万人のうち男性では1.4%、女性では22.7%、ことに働く農村の婦人では約50%が献血基準に達しないという驚くべき報告があります。貧血つまり「うすい血」では輸血にも使えないのです。

血液は血漿と血球から成り立っており、血球の中でも赤血球、白血球、血小板に分けられます。血液が赤いのは赤血球中に含まれている色素（ヘモグロビン）のためですが、この色素の働きで、血液は体中の組織に酸素や栄養を送り、かわりにいらなくなった炭酸ガスや老廃物を受け取る大切な役目を果しています。色素の成分である鉄が、酸素と結びつきやすい性質を持っているからです。もし色素の量が少なくなれば、当然血液の酸素運搬能力が低下し全身の細胞に障害を起す結果となります。

つまり「疲れやすい、息切れ、動悸、頭痛、目まい耳鳴り」などといった貧血の症状を感じるようになります。貧血は外部から見ただけでは判りにくく、また本人もそれと自覚することも少ないのですが、放っておくと取り返しのつかない病気やとくに女性の場合、異常出産をひき起す原因にもなるのです。

貧血の原因にはいろいろありますが、色素を作る鉄の摂取不足、過酷な労働による疲れ、また女性特有のものとして生理、妊娠があります。妊娠中は胎児側の栄養分の要求は母体よりも優先するのでどうしても母体は貧血になりやすいのです。ことに農家の主婦の場合、長時間の労働に加えて、間に合わせの食事による栄養の不足、その上妊娠ととくに貧血の要因は多いと言えます。

この映画は貧血をなくすにはどうしたらいいのか、働く農村婦人の実態をとらえ、労働、栄養からみた社会的成因の解明にスポットをあて、その予防と対策を科学的に明らかにしています。

あらゆる価値の中で、人間の健康こそ最高であると価値づけられた今日、健康増進への基本的理解を得、あらためて貧血の恐しさを知ってもらうためにもとくに婦人の一見をおすすめします。

〔対象〕 中学・高校・成人

〔用途〕 保健体育・婦人講座

よい子の中で人気絶頂!!

まんが日本昔ばなし

遠い昔から現代に語りつがれる永遠のロマン……美しい日本の心を伝える昔ばなしシリーズ。

各巻カラー 10分40秒

◎舌切り雀 (したきりすずめ)

心のやさしいお爺さんがケガをした雀を助けてあげたのに、欲ばり婆さんは、洗濯用に作ってあった糊を食べたというだけで雀の舌を切ってしまいました。泣き泣き雀のお宿へ帰っていったおチョン……お爺さんはまた雀を探しに山へ行きましたが……。

◎カチカチ山

山の悪たれ狸をこらしめるため、ウサギは知恵をしばります。やけどをさせてトウガラシをぬり、最後に狸を泥舟にのせて川に沈めてしまいました。

◎花咲か爺さん

助けた小犬が“ここほれ、ワンワン”。掘ると小判がザックザク。人の好いお爺さんお婆さんの家には幸せいっぱい。枯木に灰をふりかけると花が満開。ところが隣のいじ悪爺さんは……。

◎浦島太郎 (うらしまたろう)

子どもたちがいじめている一匹の子亀を助けてあげた浦島太郎は、その亀に案内されて竜宮城へ。帰りに乙姫さまにもらった玉手箱を開けると白い煙が吹き出て……。



◎さるかに合戦

かにをだましておいしい柿をひとりじめにした悪がしこい猿をこらしめるため、「うす」と「栗」と「蜂」が応援。それとも知らずに猿はのんびり鼻歌をうたって帰ってきたら……。